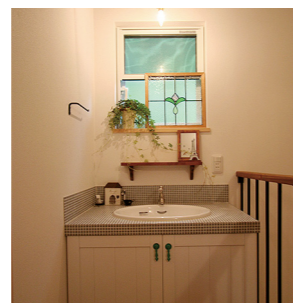
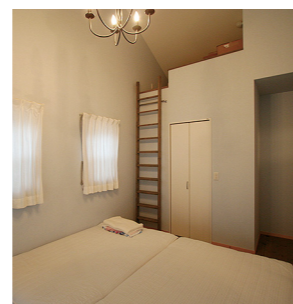




「ここしかない」と直感した。
一生住む家は一生好きでいられるようにと。



Come Home Story

ご入居後の
お宅訪問
No.010
カムホームストーリー
四万十市・Aさま邸
竣工:2012年3月
設計担当:岡本 理絵



自由設計の家

ご近所さんから「いい木がある」と聞いて、家づくりを考えはじめたというAさま。家賃がかかって形に残らないアパート生活を考え直すキッカケになったと言います。遠いからと反対されてどうしても気になっていたタイセイホームの見学会に足を運びました。いろんな展示場を見てまわっても「自分たちの建てたい家」に出会えなかったAさまは、初めて「ここしかない」と直感したと言います。憧れだった輸入住宅は手が届かず諦めていたという奥さま。安くもできるしこだわることもできるタイセイホームの自由設計の家に、憧れていたイメージ通りの家ができそうだと感じました。お客さまサポーター耕ちゃんの人柄を気に入っていたことも決め手のひとつになり、Aさまのお家づくりがスタートしました。

一生好きでいられるもの

打ち合わせは最初から最後まで楽しかったという奥さま。その時好きなものをいろいろ詰めこんでもダメ。飽きっぽい自分でもずっと好きでいるもの考えた時に、見方が変わったと言います。その中でも奥さまのこだわりは寝室。水に潜ったときに上を見上げた時のやすらぐ風景が壁全体の水色で再現されています。どうしても和室だけは譲れなかったという旦那さまは、洋風なLDとのバランスが一番難しかったと言います。こだわり抜いた和室が一番のお気に入りです。素材や色、パーツまで自分たちの好きな飽きのこないものを取り入れ、奥さま好みのパリのアパートのような雰囲気になるよう全体のバランスに気を配りました。階段の一段目には自分たちでブルーのタイルを張り合わせ、DIYも楽しんでいます。一生住む家は一生好きでいられるようにとAさまのこだわりが至るところで伺えます。

生活スタイルをベースに

一生に一度の家、「一番は、自分の好きな家を建てたほうがいい」と奥さま。決められた家では自分たちのライフスタイルに合わないと言います。素材まで一つひとつ選べる自由設計だからこそ「ここがこうだったら…」と思うことも少ないはず。お子さんの部屋の数や生活スタイルが決まってから家づくりをしたほうがいいとアドバイスをいただきました。昨年、日本一暑い町となった四万十市西土佐に建つAさま邸。タイセイホームの家は、外が蒸し暑くても家の中の空気が澄んでいると言います。「冬はあたたかく夏は涼しいから快適です」と旦那さま。日本一の暑さでも小さなエアコンひとつで乗り越えられたことに一安心。この家と共に、また新たな一年を迎えました。